



子供たちの「できた!」「わかった!」「またやりたい!」のために・・・ ～特別支援教育の視点を生かした授業・学級づくり～

「授業中なのに立ち歩いてしまう」「友達にちょっかいを出し、トラブルになる」「声をかけてもやる気を示さない」など、支援の難しさを感じることはありませんか？

先生方が支援の難しさを感じる時、その児童生徒も困り感を持っています。

「なぜそのような言動をとらざるを得ないのか」「子供たちが、本当に訴えたいことは何なのか」を考え、支援の手がかりにつなげましょう。

I 最良の支援は児童生徒理解・・・つまずきの背景に心を寄せてみましょう。

- ①課題がわからない・難しい⇒理解力や技能そのものに課題がありそう。【背景 1】
- ②課題はわかるが、最後まで取り組めない⇒集中力・記憶力に課題がありそう。【背景 2】
- ③課題はわかるが、わざとやらない⇒周囲の注目を引こうとしているのかも。【背景 3】

II 背景をもとに 5 つの視点で支援を整理・・・学級では下図①～③の視点が大切です。

<具体的な支援の一例>

①個別的配慮

- * 学習の見本、手本等視覚的な手がかりを示す。【背景 1】
- * 問題の量や内容を工夫したスモールステップのプリントや、ヒントカードなどを用意しておく。【背景 1, 2】
- * やろうとしている部分に注目し、褒める。【背景 3】

②授業づくり

- * 授業の流れをある程度パターン化する。【背景 2】
- * 学習課題に関して、予想されるつまずきへの手立てを用意する。(課題が早く終わった際の手だても大切)

【背景 1～3】

- * 指示は、一文一動作で簡潔に伝える。【背景 1, 2】

③学級づくり

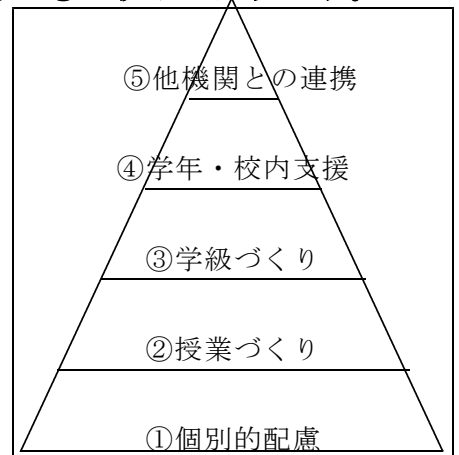
- * 教室前面の黒板周辺には掲示物を極力貼らないようにし、刺激を減らす。【背景 2】
- * グループ活動等、協力し、助け合う場面を意図的に取り入れる。【背景 1～3】

④学年・校内支援【背景 1～3 に校内体制で対応する。】

- * 校内の職員のかかわり方や役割分担、離室した際の校内体制を共通理解しておく。

⑤他機関との連携【背景 1～3 について、他機関に相談する。】

- * 市や特別支援学校の巡回相談、県のアドバイザー等を活用し、助言を得る。



<支援についての 5 つの視点>



* 一人で抱え込まず、職員間でいろいろなアイデアを出し合い、共有化を図りましょう。
* ベテランの先生方は、特別支援の視点を生かした配慮をたくさんされています。そのアイデアを教えてください。